

## 新約聖書の中の奥義 第1回

□この学び全体のアウトライン

第一部 イン트로ダクション

第二部 奥義としての神の国

第三部 教会に関する5つの奥義

第四部 イスラエルが頑なになることに関する奥義

第五部 サタンの2つの奥義 と それを打ち破る神の8番目の奥義

□第一部「イントロダクション」のアウトライン

- A) 「奥義」という用語の定義
- B) 「奥義」という用語の使用
- C) 「奥義」の概念に「ギムステリオン」が使われた理由
- D) 「奥義」という用語を使っている聖書箇所の大観
- E) 「奥義」に対する妨害
- F) 「奥義」の理解
- G) 「奥義」の数

□第一部 イン트로ダクション

## A) 「奥義」という用語の定義

1. このたびの「新約聖書の中の奥義」という学びを始めるにあたり、まず、「奥義」という用語の定義、すなわち奥義ということばが、新約聖書の文脈の中で、どのような意味で使われているのか、そのことを明らかにしておかねばならない。

(1) 「奥義」と訳されている新約聖書のギリシヤ語原語は、ムステリオンである。

① これが語源となって、英語では「ミステリー」ということばになる。

- (補足) 現代英語のミステリーは「不可解なこと、説明できないこと、秘密、謎」などを意味する (大修館 ジーニアス英和辞典 第5版)。
- (補足) 日本語の「奥義 (正しくは「おうぎ」と発音する)」は、「学問・芸能・武術などの最も大切な事柄。最もかんじんな点。極意。奥儀。」(岩波・国語辞典 第7版)。

② しかし、ギリシヤ語のムステリオンの本来の意味は、英語のミステリーとも日本語の奥儀 (おうぎ) とも違う。そのことを次に説明する。

(2) ギリシヤ語では、ムステリオンは、ムエオーから派生している。ムエオーは、閉ざすことを意味する。何を閉ざすかという、よく使われるのは、目を閉じるときである。

- ① ムエオーの根本的な意味は、人が目を閉じている有様である。
  - ② そして、その人は目を閉じて、何をしているかと言うと、瞑想である。よって、ムエオーは、瞑想するという意味でも使われる。
  - ③ そのため、ムエオーは、単に目を閉じているのではなく、「秘められていたことを知らされ、そのことについて思いを巡らす」ことも意味する。
  - ④ 古典ギリシヤ語では、ムエオーは、「隠されたこと」をも、指した。さらに、「秘密の儀式、秘密の教え、またはそれを教えるための道具」なども意味した。
- (3) 新約聖書の中では、ムステリオンという用語の意味は、神学的用語として使われ、かつ、その意味はシンプルである。
- ① 旧約聖書においては全く啓示されていなかったが、新約聖書において初めて明らかにされたことを意味する。
  - ② 旧約聖書で知られていたことであれば、それはムステリオンではない。
  - ③ このことを、次の 2. で、新約聖書の関連箇所を引いて説明する。

2. 新約聖書の中で、ムステリオンという用語がどういう意味で使われているのか、次の 6 つの聖書箇所から理解できる。第一番目はマタイの福音書で、イエスのことばの中にある。2 番目から 6 番目までは、すべて使徒パウロによる書簡からである。

- (1) マタ 13 : 11 「天の御国の奥義」→13 : 35 「世の初めから隠されていることども」・・・この世界が造られたとき以来、隠されてきたこと
- (2) ロマ 16 : 25~26 「世々にわたって長い間隠されていたが、今や現されて」
  - ① これまでの時代には、ずっと隠されていた
  - ② 今の時代になって、明らかにされた
- (3) I コリ 2 : 7 「私たちの語るのは、隠された奥義としての神の知恵であって、それは、神が、私たちの栄光のために、世界の始まる前から、あらかじめ定められたものです」
  - ① 神は、この奥義をあらかじめ定めておられた
  - ② それは、隠されていた
  - ③ 奥義のゴールは、私たちの栄光である
- (4) エペソ 3 : 4~5 「この奥義は、今は、御霊によって、キリストの聖なる使徒たちと預言者たちに啓示されていますが、前の時代には、今と同じようには人々に知らされていませんでした」
  - ① 「前の時代には知らされていなかった」→旧約聖書の時代の聖徒たちと、その後の中間時代の聖徒たちは、奥義については何も知らない。その時代には啓示されていなかったからである
  - ② 「キリストの聖なる使徒たちと預言者たちに啓示されている」→新約聖書の時代の使徒たちと預言者たちに明らかにされ、奥義の内容を知ることができるようになった
- (5) エペソ 3 : 9 「万物を創造した神のうちに世々隠されていた奥義の実現が何であるかを、明らかにする」

- ① 奥義はこれまでずっと神のうちに隠されていた
- ② 今や、すべての人々がこの奥義を知っている
- (6) コロ 1:26 「これは、多くの世代にわたって隠されていて、いま神の聖徒たちに現わされた奥義なのです」
  - ① 奥義は、これまでの世代には隠されてきた
  - ② 今や、神の聖徒たちに明らかにされた
- (7) まとめ： 以上の6つの箇所を見ると・・・
  - ① 新約聖書において「奥義<sup>ギリ</sup>ムステリオン」とは、以前は神のうちに隠されていたことであるが、今は啓示されて明らかに教えられていることである。すなわち、旧約聖書においては全く啓示されていなかったが、新約聖書において初めて明らかにされたことである。
  - ② 6つの箇所を観察して、①以外に言えることが6つある。それを次に説明する。

### 3. 6つの観察結果

- (1) パウロがこれらの書簡を書いた時までには、奥義はすでに啓示されていた。
- (2) 奥義に関する啓示は、使徒たちと新約聖書時代の預言者たちとに与えられた。
  - ① それゆえ、彼らは新約時代における教会の土台となり（エペソ 2:19~22）、新約聖書の啓示を書き記すこととなった（エペソ 3:1~11、特に 3、4、9節）。
  - ② 使徒たちと新約聖書時代の預言者たちがその働きをする上で、彼らに与えられた聖霊の賜物は、使徒の賜物と預言の賜物であった（エペソ 4:7~12、I コリ 12:4~11）
- (3) 私たち信者が奥義を理解するのは、聖霊の助けによる（I コリ 2:6~8、12~13）
- (4) 「奥義<sup>ギリ</sup>ムステリオン」という用語は、新約聖書の中では、日常会話でも使われるような、安易な使われ方をすることばではない。重要な真理を教えるために注意深くことばが選択され、厳密な意味を持つことばとして使われる、そのような用語である。
- (5) 奥義には啓示の順番がある。
  - ① まず、イエスから使徒たちに。奥義の1番目は、「奥義としての王国」。これは、イエスが使徒たちに、たとえ話の中で、明らかにした。
  - ② 次に、使徒たちと新約聖書時代の預言者たちから聖徒たちへ。奥義の2番目以降は、使徒たちと新約聖書時代の預言者たちが神からの啓示を受けた。そして彼らから、聖徒たちへ明らかにされた。今や、奥義は私たち信者の前に明らかにされている（ロマ 16:25~26）
    - パウロは、啓示によって、知らされた（エペソ 3:3）
    - 使徒たちと預言者たちに、啓示された（エペソ 3:5）
    - 今や、聖徒たちに、明らかにされている（コロ 1:26）
  - ③ 最後まで生き残った使徒は、ヨハネであった。彼が黙示録を書いて新約聖書は完成した。ヨハネの死後、まだ明らかにされていない奥義は、もはや残っていない。すべてが明らかにされている。

- ④ このようにして新約聖書は、ひとつの世代において完成したのである。旧約聖書が 1500 年の歳月を要したのとは、対照的である。
- (6) 使徒たちと新約聖書時代の預言者たちの中でも、特に、使徒パウロは、彼に特有な任務が与えられていた。その任務とは、奥義の啓示を受け取り、それを託されたしもべとして、奥義の内容を宣べ伝えるという役割である。そのことを彼自身が自覚している箇所は、次のとおりである。
- ① I コリ 4 : 1
  - ② エペ 3 : 3~4
  - ③ エペ 3 : 8~9
  - ④ エペ 6 : 19~20
  - ⑤ コロ 4 : 3~4

## B) 「奥義」という用語の使用

1. **ギ**ムステリオンは、新約聖書で 28 回、使われている。
  - (1) 共観福音書（マタイ、マルコ、ルカ）に各 1 回、3 回
  - (2) パウロが使ったのが、21 回
  - (3) 黙示録で、4 回
2. 3 つの基本的な使い方
  - (1) メシアを軸にして展開される神の計画を描写するために使われる。これには、奥義としての王国、異邦人の役割、教会についてなどの奥義が含まれる。
  - (2) 2 回だけであるが、個々人に啓示された秘密を指す（I コリ 13 : 2、14 : 2）
  - (3) ある象徴や型が持つ意味を指す。それは、旧約聖書では隠されていたが、新約聖書で初めてその意味が明らかにされた場合である。これに該当するのは、2 つ。
    - ① 「七つの星と七つの燭台」の【その秘められた意味】＝奥義（黙 1 : 20）
    - ② 奥義としての「バビロン」（黙 17 : 5、7）
      - 直訳は、次の通り・・・彼女の額には、ある名が記されていた。（それは）「奥義、大バビロン、淫婦たちと地上のすべての憎むべきものたちの母」

## C) 「奥義」の概念に**ギ**ムステリオンが使われた理由

1. **ギ**ムステリオンは、旧約聖書をギリシヤ語に訳した七十人訳聖書の中で、ダニエル書 2 章にて 8 回使われている。
  - (1) 七十人訳聖書では、ダニエル書 2 章のアラム語の「ラザ」は、**ギ**ムステリオンとして訳された。（補足：ダニ 2 : 4~7 : 28 は、ヘブル語ではなく、アラム語で記されている）
  - (2) ダニエル書 2 章の文脈は、神は秘密を明らかにするお方であることを強調して

- る。
2. アラム語の「ラザ」に相当するヘブル語は、「ソド」である。こちらは、ヘブル語聖書の中で、22回使われている。それらの箇所は、次の通り・・・神の秘密は、神が預言者を通して啓示してはじめて、神の民がそれを知ることができる
  3. パウロが、「奥義」の概念を表現するにあたり、ギリシヤ語の「ムステリオン」を使った理由
    - (1) 奥義の概念は、ヘブル語では「ソド」、アラム語では「ラザ」にあたる
    - (2) ラザを、七十人訳聖書ではギリシヤ語の「ムステリオン」として訳していた
    - (3) よって、パウロは、「ムステリオン」を単なる「秘密」や「不可解なこと」ではなく、「以前は神の秘密であったが、今や、神によって啓示され、神の民が知ることができること」について、用いている。

#### D) 「奥義」という用語を使っている聖書箇所の概観

1. 共観福音書、各1回、計3回・・・3つとも、「奥義としての王国」についての箇所。その内容を要約すると、「神の王国は、現在、悪と共存する形態において存在する」。この箇所は、たとえ話の形式をとって、信仰を持たない人々には理解することができないようにされている（マルコ4:11～12）。
  - (1) マタイ13:11 「天の御国の奥義」
  - (2) マルコ4:11 「神の国の奥義」
  - (3) ルカ8:10 「神の国の奥義」
2. パウロの書簡18か所21回
  - (1) ロマ11:25 イスラエル民族の一部がかたくなになったのは、異邦人の完成のなる時まで
  - (2) ロマ16:25～27 神が異邦人を信仰の従順へと導かれたこと、これは神の栄光のためである
  - (3) Iコリ2:1 「神のあかし」、異本は「奥義」。奥義が今や宣べ伝えられている
  - (4) Iコリ2:7 神の知恵は奥義である。Iコリ1:18～3:19の文脈は、人間の能力では、神の奥義を語ることはできない。
  - (5) Iコリ4:1 パウロは、神の奥義の管理者である
  - (6) Iコリ13:2 もしすべての奥義に通じたとしても、それらを愛の中で明らかにし、愛をもって宣べ伝えなければ、何の価値もない
  - (7) Iコリ14:2 解き明かしを伴わない異言の賜物は、聞く者にとっては、ある種の奥義である。それは解き明かしによって明らかにされないかぎり、わからないことを話すからである
  - (8) Iコリ15:51 信者の変換の奥義は、携挙のときに起きる

- (9) エペソ 1:9~10 神のみこころの奥義は、メシアにあってすべてのものを結合することである。時が満ちて、現在の混乱は終わる。メシアとの完全な関係へと世界は導かれる。世界はメシアの主権のもとに服する。
- (10) エペソ 3:1~13 異邦人が受け入れられることは奥義である。そして、教会を通して、神の知恵が霊の世界に知らされるであろう。この奥義には、ユダヤ人と異邦人が教会というひとつの体に属するという概念を含む。これこそが、教会の意味であり、目的である。
- (11) エペソ 5:32 教会とメシアは、花嫁と花婿の関係にある
- (12) エペソ 6:19~20 福音の奥義：福音を宣べ伝えることは、奥義そのものを教え知らせることにつながっている。奥義は今や教え広められなければならない。
- (13) コロ 1:26~27 異邦人が救われる。そして、すべての信者のうちに、メシアが内住される
- (14) コロ 2:2~3 「神の奥義であるキリスト」・・・直訳すると、「神の奥義、まさに父なる神の、そしてキリストの（奥義）」→メシアは神の奥義であった。メシアの中にすべての宝がある。その宝とは、隠されていた知恵と知識、すなわち奥義である。
- (15) コロ 4:3 パウロが語るべき奥義は、この文脈では特に、メシアについて、そして教会についてである。
- (16) IIテサ 2:7 「不法の奥義」 これは、サタンの奥義である
- (17) Iテモ 3:9 「信仰の奥義」、この奥義は信仰の対象である。それは、神なき人々からは隠されていた
- (18) Iテモ 3:16 「敬虔の奥義」、真の敬虔は奥義によって生み出される。敬虔の奥義とはメシアご自身である

### 3. 黙示録では3か所4回

- (1) 黙 1:20 「七つの星と七つの燭台」の奥義
- (2) 黙 10:7 「神の奥義」、これが終結または完成に近づいている
- (3) 黙 17:5、7 奥義としての「バビロン」・・・これは2つあるサタンの奥義のひとつ
- 「意味の秘められた」（5節）、「秘儀」（7節）・・・共に $\square$ ギムステリオン